令和2年度　社会福祉法人くすの木福祉事業会　事業報告

評議員会・理事会開催状況

開催年月日	参加者数（監事含）/議案数		審議内容
	評議員会	理事会	
令和2年5月24日 （決議があったとみなされた日）		（書面決議） 4件	・令和元年度社会福祉法人くすの木福祉事業会事業報告について ・令和元年度社会福祉事業区分会計決算の認定について ・令和2年度社会福祉事業区分会計補正予算について ・定時評議員会の開催について
令和2年6月15日 （決議があったとみなされた日）	（書面決議） 1件		・令和元年度社会福祉事業区分会計決算の承認について
令和2年11月4日		8名 3件	・職員就業規則の一部改正について ・経理規程の一部改正について ・令和2年度社会福祉事業区分会計補正予算について
令和3年3月22日		8名 10件	・職員就業規則の一部改正について ・職員給与規程の一部改正について ・パートタイマー就業規則の一部改正について ・育児・介護休業等に関する規則の一部改正について ・役員賠償責任保険契約の締結について ・弔慰金等支給規程の制定について ・第三者委員の選任について ・令和3年度社会福祉法人くすの木福祉事業会事業計画について ・令和3年度社会福祉事業区分会計予算について ・令和2年度社会福祉事業区分会計補正予算について
令和3年2月12日	・報告事項：ハラスメント関連事案/参加者数8名		

令和2年度　その他の本部事業

●諸規程検討

・法人諸規程検討及び労務相談（月1回開催　大山社会保険労務士来寮）

・職員就業規則の検討（ハラスメントの防止、懲戒条項整理）

・職員給与規程の検討（危険手当、年末年始手当の創設）

・ハラスメント方針及びハラスメント防止要綱制定

●職員研修　※新型コロナウイルス感染予防の観点から参加者を少数にして実施

・法人職員障害者虐待防止研修会

　アンガーマネジメント研修　：　成春館　田原授産所　鎌田博幸氏

・法人役職者研修

　働き方改革について　：　大山税理士・社会保険労務士事務所　大山葉子氏（法人顧問社労士）

・AED及び心肺蘇生法講習（年2回）　：　日赤愛知支部　村崎正明指導員

・法人職員研修：防犯研修、感染症対策講習　※コロナ禍により中止

●蒲郡市地域福祉計画策定委員会（理事長出席）

●法人災害対策委員会

・災害対策本部及び福祉避難所設置訓練の実施、感染症を想定した事業継続計画（BCP）の策定

●地域公益取組推進委員会

・蒲郡市社会福祉協議会「支え合いの地域づくり」オンライン説明会参加

●法人職員採用試験実施（15回）

令和２年度　障害者支援施設つつじ寮事業報告

１．職員構成

総数　４９名　（　）は非常勤再掲

施設長　　１	事務員　　２（１）	サビ管　　１	生活支援員　　３５（１４）
看護師　　２（１）	栄養士　　１	調理員　　６（６）	嘱託医　１（１）

２．利用者の状況

定員　５０名

●療育手帳判定

	A判定	B判定	C判定	計
男	26	0	0	26
女	19	5	0	24
計	45	5	0	50

●障害支援区分

区分	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	0	5	10	11	26
女	0	0	0	5	7	12	24
計	0	0	0	10	17	23	50

●在籍および入退所状況

施設入所者　令和３年３月３１日現在５０名

退所者　０名　入所者　０名

３．支援状況

新型コロナウイルス感染症に影響された１年であった。そのため、国や県から出された情報をもとに感染症防止対策を実施しながら支援にあたった。

具体的な支援については、昨年度に引き続き、高齢・重度化に対応するべく、利用者１．７人に対して１人の職員を配置して、マンパワーによる利用者支援の充実を図るとともに、国家資格取得の奨励や研修等の強化を図り、スキルアップに取り組んだ。男女棟毎に１ケースを取り上げ、１年をかけて全職員でケース研究に取り組み、支援の質の

向上に努めた。日中活動支援については、個々人の能力や適性、年齢に合わせ、生産活動を行う「下請け作業班」と高齢、重度の方に対して身体機能維持活動を行う「ひまわり班」の２班で活動を実施した。

それぞれの利用者の想い（ニーズ）に寄り添い、本人が楽しみながら、生きがいのある生活が送れるよう個別支援計画を立て、目標が達成できるように以下の支援を行った。

（１）生活支援

生活面では、食事・排泄・入浴等必要不可欠な支援について個別の支援ガイドを作成し、利用者本人の状態に合わせた支援を行った。

（２）日中活動支援

＜下請け作業班＞ 班員 21 名（男性 12 名・女性 9 名）

支援状況及び報告

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく出て、わくわくワーク大塚の仕事の受注が不安定になり、実績が大幅に減少している。Ｆバーナーの受注も復活せず減少傾向で、Mテックの受注は春の緊急事態宣言時に停止している。

作業に関しては、個々の利用者の能力に合わせて作業工程を工夫し、どの利用者も作業に参加できるように努めた。１０月に女性利用者１名が、ひまわり班に異動となり、１１月より新たにひまわり班から男性利用者２名が異動となった。２名とも作業能力的にはまだ発展途中ではあるがすぐに下請け作業班になじんで、毎日意欲的に作業に参加されている。

作業を頑張ったことで、利用者も給料を受け取ることを楽しみにしている。給料日の日は作業に実が入る利用者が多く、新型コロナウイルス感染症防止のため職員が購入したお菓子をみんなで食べるなど、息抜きの日を設けることで作業意欲向上に努めた。

作業が落ち着いている日には､利用者と一緒に施設の周りやドライブ先で散歩したり、ひまわり班にと一緒に運動を行うなど、体力の維持に努めた。

＜ひまわり班＞　班員 29 名（男性 14 名　女性 15 名）

支援状況及び報告

ひまわり班は、基本的にアクティブ、ヘルス、ケアの３グループに分け、円滑な活動ができるようにしているが、更に利用者一人ひとりのニーズに寄り添えるよう、本年度は３つのグループに拘ることなく、利用者の適性に沿った支援が行えるようグループの垣根を越えて柔軟に活動を進めた。具体的には、歩行速度に合わせた散歩のグループ分けや、利用者に合ったコースを選ぶこと、ドライブ散歩、寮内歩行、運動場歩行などを行った。

昨年度に引き続き、その日の活動を仕切る職員のリーダーを決めて、特定職員だけで活動を進めることによる活動内容の偏りを防ぎ、正職員に責任を持たせ、その効果が出た。

活動については、今年度は全体的に体力維持を目標に散歩を中心に実施し、年間を通して体を動かすことができた。

（３）自立支援

１）生活支援・・・金銭感覚取得、身辺の自立

地元の理美容院に出かけ、金銭使用に慣れたり、外出する中でマナーを学ぶ等、各自のスキルアップへの取組みを実施した。

買い物や洗濯など個々に合わせた個別支援計画を作成し、生活する上で自立に必要な支援を行った。

２）地域生活、就労に向けた支援…今年度は、グループホーム入居希望者が 1 名出たため支援を進めたが、入居には至らなかった。

（４）余暇活動

生活に潤いを持たせ、ストレスの解消を図るため休日や平日の自由時間を有意義に過ごせるようにした。具体例として夕食後の余暇活動で、塗り絵、カラオケ、軽運動など充実した活動を毎日実施した。

また、月１回土曜日の午前中に講師を招いた生け花教室、休日の午後に「コーヒータイム」を実施した。

月２回ボランティアの引率で、近くの喫茶店に出かける「喫茶店へ行こう」を長年実施していたが、コロナ禍で中止した。

（５）TAP 活動

セラピー活動（音楽療法・読み聞かせ）、アート活動（絵画教室・木工教室）を毎月実施した。但し、コロナ禍で中止の期間もあった。（読み聞かせ・木工教室については隔月実施）読み聞かせについては令和元年１２月より講師が辞め、実施できなかったが、２年９月より蒲郡市の広報に読み聞かせボランティアの掲載があり、調整を行い９月より読み聞かせを再開することができた。絵画教室は講師の丁寧な指導により 1 つの作品に時間をかけて取り組む利用者や、個々の特性を生かした絵を描き完成させている。完成した作品は絵画展等に出品している。また、１月より職員が講師となり書道教室を開始している。

どの活動も個々の利用者の希望を尊重し、日々の生活の中で楽しみや生き甲斐の持てる充実した活動となり、参加利用者は毎回意欲的で笑顔に満ちていた。

今後も活動を継続して行き、利用者にとって生活の中での楽しみになるような活動を行っていく。

4. 健康管理

年２回保健・給食委員会を開き、それぞれの課題解決や充実を図ると共に健康維持に努めた。新型コロナウィルス感染症の対策として感染症対策委員会を計９回開催し、感染防止対策を行った。

(1) 定期健康診断(6/16、10/9)
聴打診、血圧測定、尿検査、血液検査、検便、胸部レントゲン（春)、腹囲測定（春)、心電図（秋)、大腸がん検査（秋）

(2) 乳ガン検診（7・9 月）　子宮ガン検診（10・11 月）

(3) 通院状況
定期通院については、内科、歯科、眼科、外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科、精神科、婦人科の通院を行った。また、歯科については蒲郡市障がい者歯科診療所の通院を行い、治療の難しい利用者が利用した。また季節的に、水虫、感冒、花粉症による通院を行った。

(4) 入院状況（延人数）

15 日未満	内科 2 名
15 日以上 1 ヶ月未満	内科 1 名　整形外科 1 名
1 ヶ月以上 3 ヶ月未満	内科 1 名

(5) 寮内処置状況
（水 虫 対 策）　皮膚科に通院し、処方された外用薬を塗る治療を行った。また常に足を清潔にするように支援を行った。

（怪我の処置）　擦り傷、切り傷、軽い外傷。

（感染症対策）　日ごろの予防として、手洗い、うがい他、体力作りに心がけた。
毎日の体温測定(冬期時１日２回測定)を行い、早期発見に努めた。
薬剤を使用した寮内消毒及び清掃を念入りに行った。
インフルエンザワクチン接種については、11 月実施。
１月から３月の感染症流行期には予防として外出時にはマスク着用、また面会を控える対応を行った。
１月に職員２名がインフルエンザに罹患したが、蔓延することなく

利用者の罹患者はいなかった。しかし国内で新型コロナウィルス感染症が拡大し、蒲郡市内においても感染者が発生した。こうした状況下、国の緊急事態宣言発令中は、入所者罹患防止のため、短期入所、日中一時支援の受け入れを休止した。また、新型コロナウィルス感染症防止のため、外出等の自粛を行った。

５．食　事

必要な栄養素・栄養バランスの摂れた献立を作成し、旬の食材を多く使用した食事を提供した。嗜好調査や、毎月の集会でリクエストの聞き取りを行い、献立に取り入れた。毎週木曜日には主菜を２種類用意する選択メニューを実施し、選択する自由を尊重した。また季節の行事に合わせた食事を提供し、食事をより楽しんでもらえるように努めた。

健康管理上の配慮が必要な方は、栄養士、調理員、看護師、支援員が協議して、以下の様に対応した。

・肥満者・・・・・・・・・肥満食、極肥満食
・低体重者・・・・・・・・主菜、副菜１．５倍食
・咀嚼能力の低い者・・・・きざみ食
・嚥下能力の低い者・・・・とろみ付け、ミキサー食
・血圧の高い者・・・・・・塩分を控える（汁物半量、漬物なし等）

６．行　事

コロナ禍の中、多くの行事を感染防止の為中止した。

５月	春期家庭療育　中止
６月	ふれあい旅行（日帰り）　中止
６月１６日	春の定期健診
８月	夏期家庭療育　中止
８月２７日	夏まつり２０２０ｉｎつつじ寮
９月	ふれあい旅行（一泊）　中止
９月１１日	あしあとの会
１０月１９日	秋の定期健診
１１月	第２９回地域交流くすの木福祉まつり　中止
１２月２１日	クリスマス会・蒲郡市歳末慰問
１２月２３日	もちつき会（大塚保育園児受け入れ　中止）
１２月	冬期家庭療育　中止
２月　２日	節分豆まき

７．職員研修

利用者に対し心理的、身体的、社会的自立と安定した日常生活を援助するためには、現在かかえる利用者の高齢化や重度化等、サービスを提供する上で、必要な知識及び技術を専門的に学習する必要がある。そのため年間を通し以下のように行った。

(1) 施設内研修

コロナ禍のため、法人として企画はしたものの、実施できたのは、救急救命講習(AED)と、障害者虐待防止研修のみだった。

しかし、職員会議等で折に触れて、説明等をしてきた。

(2) 施設外研修（愛知県社会福祉協議会、知的障害者福祉協会等主催研修）

初任者、中堅職員研修で、職員のスキルアップを図り、資質、知識向上に繋がった。

また、昨年コロナ禍のため受講できなかった、強度行動障害の研修も受けることが出来た。

８．共同生活援助事業のバックアップ

共同生活援助事業所ひめはる、かるみあ・はちまんをバックアップした。各事業所と連携し、各ホームの状況把握に努め、緊急時にはその対応を行った。また入居者が安心して地域で暮らしていけるよう最大限の協力をした。

９．その他

(1) レクリエーション　・新型コロナウィルス感染予防対策を施し、グループごとに随時実施。外食を兼ねた買い物、公園散策、道の駅めぐり、みかん狩り、工場見学、大衆演劇、温泉で入浴等を実施した。

(2) 防災訓練　・毎月１回実施
・日中のみならず、職員の少ない夜間を想定し、非常時の対応ができる様に訓練した。１０月に法人災害対策本部設置訓練・福祉避難所設置訓練を行った。

(3) 環境整備　・毎月１回実施
・寮内整備及び美化に努めた。

(4) 地域活動　・ふるさと博推進委員会（地元活動団体）の学習資源整備（年４回）、トイレ清掃管理（当番月：年３回）に取り組んだ。

(5) 理髪　・５月・９月・１２月・２月に実施。

(6) 面会日・保護者会　・新型コロナウィルス感染予防のため、保護者会は中止する。面会は、緊急事態宣言の出ていない期間、個別面接で対応した。

(7) ボランティアの受入れ　・繕い物作業等に温かいご支援、ご協力を頂いた。

(8) 苦情解決事業及び虐待防止　・社会福祉法の規定に基づき、福祉サービスに関する苦情相談窓口等について啓発すると共に利用者一人ひとりの面談に努めた。（令和２年度件数　０件）

・虐待防止については年２回、講師を招き研修を行った。また月１回虐待防止委員会を開催した。
（令和２年度通報件数　２件）

(9) 短期入所（宿泊を伴うショートスティ）事業

・令和２年度利用実績　延べ　６５名、２２２日

(10) 日中一時支援(日帰りショートスティ)事業

・令和２年度利用実績　延べ　５１名、２４９日

(11) 生活介護（通所）

・令和２年度利用実績　延べ　１２名、５２日

令和２年度　サポートくすの木　事業報告

１．職員構成

(R3.3.31 現在)

職　　種	常　勤	非常勤	計
管　理　者　(施設長)	1		1
サービス管理責任者	1		1
生 活 支 援 員	6(1)	9	15(1)
看 護 職 員		1	1
事　務　員	1		1
調　理　員		2	2
嘱　託　医		1	1
計	9(1)	13	22(1)

※(　)内は兼務

２．利用者の状況

(1)障害支援区分状況

(R3.3.31 現在)

区分 / 性別	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
男　性	0	0	5	12	14	5	36
女　性	0	0	3	8	1	3	15
計	0	0	8	20	15	8	51

(2)月別 利用契約状況

月 / 市町	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
蒲郡市	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
豊川市	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
豊橋市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	52	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51

(3)月別 利用数状況（定員５５名）

月 / 利用数・率	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	52	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
利用率 (%) (対 利用者数)	92.1	93.9	95.5	95.3	93.7	94.6	94.3	94.7	94.7	93.5	90.8	94.8
一日あたり 平均利用人数	47.9	47.9	48.7	48.6	47.8	48.2	48.1	48.3	48.3	47.7	46.3	48.3

３．全体を通して

利用実績は、一日平均 48 人、対定員の利用率 87%で昨年度より 2 名減となりました。退所者は 1 名でした。

皆勤賞（一日も休まずに登所した利用者）は 24 名で昨年度に対し 8 名増でした。生産活動では、新型コロナウイルス感染症予防対策として、換気、手洗い、消毒、検温（朝昼）、マスク着用を徹底するよう注意を払い昨年に引き続き委託作業部門・木工部門・菓子部門の３部門で実施し、利用者一人ひとりに適した作業環境を整備し、働く楽しみや喜び充実感が持てるように支援した。元気班（生活介護活動）においても、新型コロナウイルス感染症予防対策をすると共に運動器具や環境の整備に努めた。一人ひとりの課題やニーズに応じた支援、排泄等の介助、体力維持に努めるため、エアロバイクを設置する等体力の低下防止に繋がる支援をした。

生産活動実績は、第１課、第２課とも新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度に対して 72%でした。特に菓子部門は、バザー等販売先の大幅減により昨年対比 52%でした。

４．生産活動

第 1 課は、委託作業部門、第 2 課は、木工部門・菓子部門で実施した。

委託作業部門においては、主に 3 社から作業を請け負う、昨年 3 月からの新型コロナウイルス蔓延による影響を受け、総合的な受注量は大幅に減少してしまった。その為、利用者への作業提供の見直しを何度も迫られた。作業が著しく少なくなった場合は余暇活動（ビデオ鑑賞、塗り絵、折り紙等）を１日のプログラムの中に取り込む日が続き、日中活動がマンネリ化することもあった。受注先には随時連絡を取り、新しい仕事がないか確認をしたが、進展には至らなかった。

今年度の作業目標である“作業スキルの向上”には精力的に取り組んだ。利用者からの作業の希望を尊重しつつ、治具や工具を工夫することにより、今までできなかった作業ができるようになったのは、利用者はもとより職員も喜びはひとしおである。

作業環境の整備について、老朽化の目立った開設当初より使用されていた作業机８台を新調し、良い環境で作業できるようになった。

第２課木工部門でも、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、バザーやイベントの中止が相次いだ。商品を作っても販売する機会が失われる事態に陥り実績等にも比例する結果となったが、手をこまねいているだけでは前進がないため「逆転の発想」と捉え、忙しい日々のなかで出来なかった体力活動や環境整備。また個々のスキルアップに努め、縮小した需要のなかでも活路を見出すのにアイデアを持ち寄りながら利用者に作業提供出来た。

消費の冷え込む状況下、注文をしてくださった団体、企業様。またオーダーメイドをしてくださった個人様に改めて感謝したい。また市から委託受注の生ごみ処理器「キエーロ」の製作にも携わることができ、来年度も引き続き受注をいただけることが決まった。

菓子部門におきましても、新型コロナウイルスの影響が大きく通常の販売やイベント行事の中止、また例年頂けていた大口の注文もなくなり、売上にかなりのダメ

ージを受けた。
　販路がなく、商品を作る機会が減ってしまった。販売先の開拓のスタートが遅れてしまったが、まず利用者に継続的に作業を提供出来るように職員で色々考え、事業所内での昼食の誕生日メニューのデザートの受注製造を行った。食後に利用者、職員からの感想を踏まえ、製品の質の向上やまた製造している利用者のやる気にもつながった。
　新製品の開拓に消極的になってしまったが、季節の行事に合わせた商品を作り、法人内でチラシを配布して注文の受付をするという形に挑戦をすることにした。
秋にはハロウィン、冬にはクリスマス、年が明けバレンタインにホワイトデーがあり、その季節の行事に合わせた形のクッキーを作り、可愛いラッピングにすることで多くの注文が頂けた。作業もたくさんでき、職員・利用者共に協力して作り上げることができた。その成果もあってか、前半はかなり売り上げが落ちたが、後半は多少伸びた。
　マイナスばかりではなく、製品づくりの工程に力を入れることができ、利用者支援にしっかりと取り組むことができた。職員がマンツーマンで付きながら習得してもらうことにより、今まで出来なかったことが出来るようになり、利用者の製品づくりの自信につながり、今後量産が必要になっても対応できる力がついた。

５．生活介護活動

　日中活動のプログラムについては、全体の大枠から個々の性格や人間関係に注目をして、細かい部分も実施・検証しながら小変更を繰り返し、定着化に繋げた。現状、人間関係のトラブルや情緒不安定な場面は減り、落ち着いて生活が送れる日々が大半を占めている。
　生産活動においては、委託作業課からの軽作業の提供を受け、その作業工賃の契約を結ぶ事により、作業に取り組む利用者の工賃へ反映させる事が実現した。
　運動面においてはエアロバイクを購入し、ウオーキングマシーンに併せて下肢運動のメニューを増やした。また、手指の運動や脳の活性化を期待して、ペグを購入。重度の利用者も取り組む事が出来、活動の幅が広がっている。
　この一年、コロナウイルス感染症の世界的流行の影響で生活様式は一変しその対応にも取り組んだ。取り掛かりとして、「マスク」と言う言葉を常に発し、強制する事に頼らない方法でマスクの習慣化に向けた流れを作り出した。手洗いとアルコール手指消毒においては、時間を設定して毎日毎回の職員マンツーによる支援を図り、各個人の感染予防の確実な徹底を図った。更には、部屋の冷・暖房中に限らず、空気の入れ替えを常に実施すると共に、使用する運動器具や活動室内の手で触れるであろう部分の消毒を毎日行い、清潔な活動の場の提供を行った。今年度は、今まで以上に、利用者の安全・安心に力を入れた年となった。

６．生活・余暇支援

　基本的生活習慣については、適時支援をして習慣になるように実施した。
　また、余暇活動については、自治会組織を尊重し、生活、企画部門等において利用者の意見が反映されるように努めるたが、新型コロナウイルス感染症の影響により日帰り旅行、合同レクが中止になりました。レクリェーション等ついては感染症予防対策をして実施した。

７．保健支援

個々の健康管理に配慮することを第一に掲げ、個別支援計画に基づき、障害や疾病に合わせた支援をした。

毎月１回、嘱託医による個別面談・医療相談を実施し、11 月には希望者に対してインフルエンザ予防接種を実施した。

新型コロナウイルス感染症対策として、換気、手洗い、消毒、検温（朝昼）、マスクの着用、バス降車時の手指消毒を周知した。また、給食については時間差を設け密にならないようにした。

3 月、法人職員救急法講習会に参加し、AED 操作や応急手当、心肺蘇生法に関する講習を受けた。

８．環境整備

毎月１回実施

日常の掃除では行き届かない部分や掃除しきれない部分を中心に実施し、施設内の美化に努めた。

新型コロナウイルス感染症予防のため、毎日所内（公用車含む）消毒を実施した。

９．日中一時支援

令和２年度利用実績　　契約者数　０名

10．苦情解決

社会福祉法第 82 条の規定及び局長通知「社会福祉事業の経営者による福祉サースに関する苦情解決の仕組みの指針について」により、福祉サービスに関する苦情解決事業を実施した。（令和２度件数０件）

11．虐待防止

法人内虐待防止研修（アンガーマネジメント）が、9 月に開催された。また、各個人が３カ月に１回の自己点検表を提出し、それぞれが日々の支援の振り返りをする事で、意識の維持・向上を図った。点検表は集計を取り、虐待防止委員会（メンバー：役職者・各課 1～2 名　開催：3 か月 1 回）で内容を検討後、結果を全職員に配布した。（令和２度件数２件）

12．職員研修

職員の資質及び専門性の向上、意識改革を図るため、下記の研修会や法人内虐待防止研修及び法人内救急法研修等に参加した。

・キャリアパス対応生涯研修課程
・新型コロナウイルス感染症への対応に関する研修会
・管理者研修　・中堅者研修　・障がい者権利擁護研修　・リーダー研修

・自閉症カンファレンス NIPPON2020
・改正食品衛生法オンライン連続セミナー
・高齢知的障害者への支援に関する研修会
・相談支援専門員・サービス管理責任者連携研修
・豊川市社会福祉施設協会研修
・専門コース別研修権利擁護
・知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会
・強度行動障害支援者養成研修「基礎研修」
・法人内研修～虐待防止研修、役職者研修、AED 講習（気道異物除去）

13. 防災訓練

令和２年度実施回数　６回
実施内容　　地震及び火災による護身・避難並びに通報訓練、消火訓練。
津波警報による避難訓練。
法人合同防災訓練については、広域の大規模災害（地震）発生を想定しての姉妹施設間の伝達訓練、福祉避難所立ち上げ訓練に参加した。

14. 行事実績

別紙１のとおり

15. 生産活動実績

別紙２のとおり

別紙１

令和２年度　行事実施報告

月	日	内　　容
４	１７ ２４	自治会選挙・全体集会 特別賞与支給日
６	２２ ２４ ３０	定期健診（利用者・職員） 法人防災訓練（代替・サポートくすの木事業所単位） 賞与支給日
８	８ １３	サポートくすの木夏まつり会 利用者夏期休暇　（～１６日）
９	４ １１ １７ １８ ２５	選択レクリェーション（委託課４名・岡崎方面） 選択レクリェーション（委託課７名・のんほいパーク他） 選択レクリェーション（元気班９名・のんほいパーク他） 選択レクリェーション（委託課８名・伊良湖岬他） 選択レクリェーション（木工課１０名・のんほいパーク他）
１０	２ ９ ２６	選択レクリェーション（かふりえ５名・のんほいパーク他） 選択レクリェーション（委託課７名・伊良湖岬方面） 定期健診（利用者）
１２	１５ ２５ ２７	賞与支給日 クリスマス会（食事は課ごとで摂る） 利用者冬期休暇（１／３日）
２	２	節分・豆まき（課ごとで実施）
３	２５	賞与支給日
毎　　月		工賃支給 嘱託医来診（医療相談） 環境整備 ＊コロナ禍の影響で残念ながら多くの行事が中止となってしまいました。

別紙２

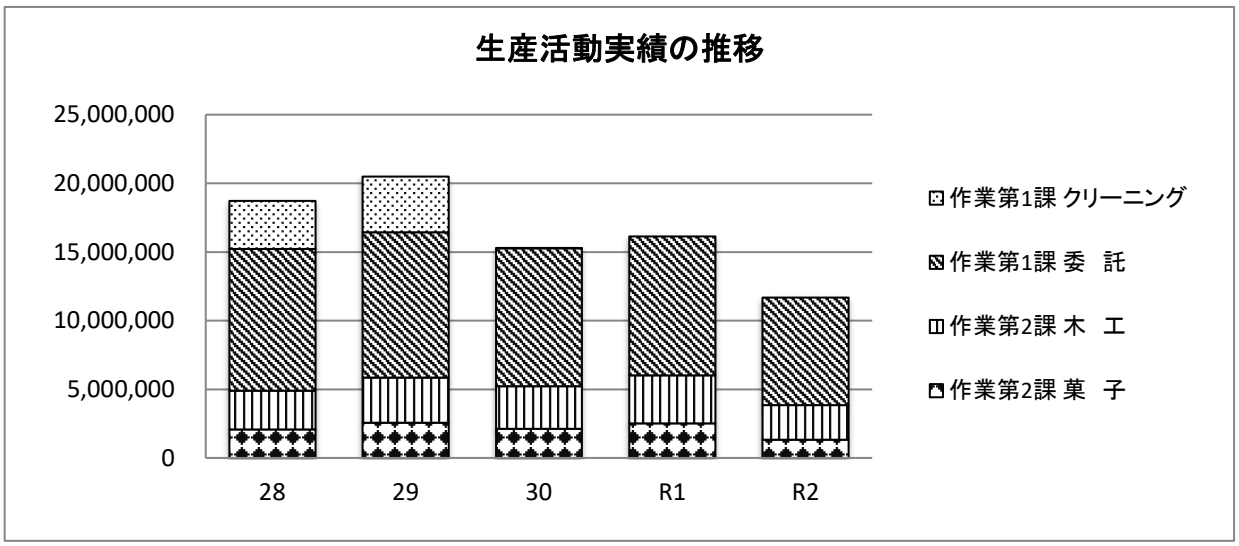
令和２年度　生産活動実績

(1) 年間課別実績

月	作業第1課 クリーニング	作業第1課 委　託	作業第2課 木　工	作業第2課 菓　子	その他	計	経　費	純利益	工　賃
4		1,210	0	34,060		35,270	216,016	−180,746	700,500
5		619,639	208,700	124,310		952,649	453,858	498,791	699,888
6		459,058	101,500	79,130		639,688	278,152	361,536	1,396,172
7		687,441	154,150	92,160		933,751	298,391	635,360	699,989
8		780,820	246,610	74,290		1,101,720	297,441	804,279	699,990
9		563,568	208,770	55,690		828,028	277,000	551,028	699,997
10		740,046	231,970	87,890		1,059,906	379,365	680,541	629,889
11		787,641	181,740	110,540		1,079,921	247,088	832,833	630,174
12		664,850	507,710	188,440		1,361,000	392,574	968,426	1,644,787
1		599,477	219,740	109,650		928,867	199,465	729,402	629,884
2		577,487	268,334	150,685		996,506	245,322	751,184	629,838
3		599,830	201,580	178,060		979,470	111,299	868,171	944,857
決算見込		740,117	0	39,230		779,347	824,966	−45,619	
合　計	0	7,821,184	2,530,804	1,324,135	0	11,676,123	4,220,937	7,455,186	10,005,965
月平均	0	651,765	210,900	110,345	0	973,010	351,745	621,266	833,830

(2) 年度別実績

(年度)	作業第1課 クリーニング	作業第1課 委　託	作業第2課 木　工	作業第2課 菓　子	その他	計	工賃総額	工賃平均 (一人/年)	工賃平均 (一人/月)
28	3,480,284	10,332,857	2,832,669	2,064,216	2,770	18,712,796	12,817,300	136,261	11,355
29	4,047,273	10,582,139	3,295,161	2,557,431	0	20,482,004	15,116,800	201,183	16,765
30	17,660	10,030,348	3,111,520	2,114,910	0	15,274,438	10,693,400	256,216	21,351
R1		10,126,473	3,475,784	2,528,274	0	16,130,531	10,904,400	194,425	16,202
R2		7,821,184	2,530,804	1,324,135	0	11,676,123	10,005,965	181,927	15,161



令和２年度　わくわくワーク大塚　事業報告

１．職員構成

総数　２２名　　（内非常勤）

施設長　１	サービス管理責任者１	生活支援員１４（８） （１名看護師兼務）	事務員１	
看護師１（１）（生活支援員兼務）		調理員２（２）	運転手１（１） 添乗員１（１）	嘱託医１（１）

２．利用者の状況

（１）　月別利用契約者状況

市町村＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
蒲郡市	45	45	45	45	45	45	45	45	44	44	44	44
豊川市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
安城市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	47	47	47	47	47	47	47	47	46	46	46	46

（２）　各種関係手帳所持状況　　（　）は重複者

性別＼種別	療育手帳				身体障害者手帳						計
	A級	B級	C級	なし	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
男	２２	4	0	0				(1)			２６
女	１４	6	0	0	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)		２０
計	３６	１０	0	0	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)		４６

（３）　障害支援区分

性別＼項目	6	5	4	3	2	計
男	2	8	１３	3	0	２６
女	2	4	8	6	0	２０
計	4	１２	２１	9	0	４６

（４）　日常生活自立状況

領域＼状況	で　き　る		声かけにより可能		介助により可能		できない		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
食　　事	２２	１５	４	１	０	４	０	０	４６
歯磨き・洗面	１９	１３	２	２	３	４	２	１	４６
排泄（生理）	２１	１３	４	２(2)	１	２(2)	０	３(3)	４６
着　脱　衣	２２	１５	４	０	０	２	０	３	４６
掃除（担当箇所）	１２	１１	７	３	０	２	７	４	４６

（５）　月別利用者数状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定　員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
月平均利用者数	44.2	44.7	44.2	44.0	44.3	44.5	43.5	43.4	43.1	43.4	43.9	43.7

平均月利用者数：43.9

３．日中活動支援

（１）自主製品科作業実績

①はじめに

今年度は、利用者２１名、職員６名（内非常勤職員３名）という体制で引き続きスタートした。作業内容は、菌床しいたけ栽培、委託作業、縫製作業を継続している。

それぞれの部門でより一層の作業の充実を目指して取り組んだ。また利用者一人一人の作業能力、個々に適応した作業を考え、委託作業科と協調して、一人一人に合った作業を提供するように心掛けた。

委託作業は若干減少したものの、しいたけ栽培が好調で、しいたけ作業、縫製作業いずれも、昨年度以上の実績を上げることができた。

②縫製部門

昨年度から、引き続きの新型コロナウイルスの影響により、バザー等が軒並み中止されたが、前半はマスクの好調な売り上げに助けられた１年であった。

新型コロナウイルスの影響はまだまだ社会の様々な場面で大きく景気を左右しているが、当科においては、引き続き、マスク販売で多くの実績を上げることが出来た１年であった。

商品別ではなんといってもマスクの売り上げが、総売り上げの８割を占めており、昨年度の約３倍の作成数（３５００枚弱）をあげる事ができた。一年中、マスクを着用して、新型コロナウイルスやインフルエンザなど感染症を予防してくれるアイテムの重要なものとして定着しているためであろう。例年、一番の売り上げをあげていたスツールについては、昨年度より半分強程度の販売に終わってしまった。大きな売り上げを占めている常設店での集客の低下などが原因と思われる。傘カバー他の商品については昨年度と同じくらいの実績であった。

各常設店販売別では、テーマパーク内の販売先Ｂが４２％、福祉課での販売が２２％、竹島園地内の販売先Ｔが3%、個人販売が２９％、ターバン作成が０．１％、バザー他が３．９％となった。

総実績においては昨年度を上回り、７９４，５７７円の最高を売り上げることが出来た。これもマスクの販売増が大きかったためである。

最後に、いつもながら、スツール作成において牛乳パックや酒パックを提供してくださるスーパーF様、保護者・職員・関係者の方々、綿の材料をいつでも快く寄付していただけるＫ反毛工場様に深く感謝しています。

③委託作業

今年度は（株）W様より小学校教材のフェルト裁断作業を請け負い８年目、練習布セットを請け負い３年目の年であった。今年度は、練習布セットの不良を出さないように留意して取り組んだ 1 年であった。新型コロナウィルスの影響で、小学校のカリキュラムにそってこの練習布セットが教材として全国に出荷できたのかは不明であるが、不良の報告は届いていない。

実績については、引き続き、委託作業主が親企業より請け負った計画的な受注に沿った数量の実績であるが、昨年度は１，１６８，１８４円、今年度は１，０７３，５１２円と９４，６７２円減となった。漸減傾向である。

作業種としてこれ以外にM工業の部品の組付け、B 作業等、不良を出さないように気をつけながら、職員・利用者共々、努力してきた。作業の流れにおいて、利用者も自分の作業の分担を理解しており、大きな混乱もなく、新しい作業や分担の異動があっても安定して作業に取り組むことができた多忙な一年であった。

④菌床しいたけ栽培

菌床搬入後から温度、湿度管理は毎日行った。菌床については、昨年度同様に三重県から仕入れた。品種も同様で、引き続き搬入回数を２回に減らすことで労力の軽減と経費削減を図っている。今年度は収穫量１００㎏を超えたのが１日と集中発生を抑えることができたという点から無駄にしいたけを市場に出荷したり、廃棄したりする必要がなく実績につなぐことができた。雑菌混入を避けるため５月ＧW明けに菌床搬入をした。培養が順調に進み、腐敗するものが少なく 3 月まで収穫することができた。総収穫量としては約４，２００㎏と昨年度より約２，０００㎏増え、実績も１００万円程増えた。

普及啓発の一環という観点からも近隣の老人ホームや保育園などの地元での販売を継続している。“しいたけ直売所”ののぼりを温室前に立て始めて５年目になるが、地域への理

解も少しずつ広がり近隣の方、市外の方も多くおとずれてくれた。
　また、コロナ禍で、東三河地域のバザーは軒並み中止になったが、わずかでも開催されたバザーがあれば出向き、販売させていただいた。しいたけの品質といった点でも、「品質の良いしいたけ」と好評をいただくことができた。

（２） 委託作業科実績

①はじめに

　委託作業科の体制になり９年目を迎え、利用者２７名、職員９名（内非常勤職員５名）という体制で企業の下請け作業を中心に取り組んだ。作業内容は、委託作業全般・製パン・製菓作業ということで、委託作業は５社の業者から作業を受注し行っている。それぞれの業者からの作業の受注状況と利用者の作業能力に応じて、一人一人に合った作業を提供するように心掛けた。

②委託作業

　委託作業では、５社の業者から自動車関連組み付け作業、部品のセット、プラスチック部品の組み付け作業、建築用部品の作成作業、ダンボールの緩衝材の組み立て、バーナー部品の加工等を行った。中でも自動車関連の業者からの委託作業は増加傾向にあり、安定した作業量、作業種の確保をすることが出来た。作業内容も簡単なものから高度なものまで様々あり、より多くの利用者の皆さんに作業を提供することができた。
　一方で、住宅関連の業者についてもマンション需要とともに作業量も増加してきており、安定した作業量を確保できるようになってきている。より生産性を高めていくのと伴に、質の向上にも努めていくことで受注量の増加、新作業の獲得を目指し取り組んでいる。

③製菓部門

　令和２年度は利用者５名、職員２名を配置し、作業に取り組んだ。製パン作業は、法人内の食事提供を中心に行う。従来販売していた小学校の先生向けや企業での販売、デイサービスのおやつ、特別養護老人ホームはコロナ禍のため販売できず。バザーがなかった分、保護者等の注文販売に力を入れ、安定して作業ができた。製菓では、従来の焼きドーナッツやクッキーの製造を行ったが、バザーがなかったため、注文販売を行った。
　利用者、職員共に検便を実施し、作業中には白衣や帽子、マスクを必ず着用、手洗い、アルコール消毒の徹底など衛生面にも十分な配慮をして作業に取り組んでいる。材料の計量から生地に照りをつけるための卵塗り、生地並べや焼成後の包装作業などを行う中で １つ１つ丁寧に取り組み、自信を持って提供できる製品作りを心がけている。

４．日常社会生活支援・健康管理支援

（１）日常社会生活支援

《手洗い》

インフルエンザやノロウイルス、新型コロナウィルス等感染症予防のため、令和２年度より、玄関に手動アルコール消毒器に加えて自動アルコール消毒器を導入し、登所時の手指消毒を継続実施している。手洗いについても、ここ数年で自動水栓・自動石鹸・ジェットタオル等を整備し、自動アルコール消毒器とともに感染予防に対応している。

基本的な手洗い支援として、お茶休憩時や昼食の手洗い時には職員がついて、「水で洗い流す」⇒「きちんと石鹸液で汚れを落とす」⇒「水で洗い流す」⇒「ペーパータオルまたは、綺麗なハンカチ等で拭き取る」あるいは「ジェットタオルで乾かす」⇒「消毒液を手指に擦り込む」という一連の流れがスムーズに行う事が出来るよう支援した。

毎日の繰り返しで、家庭でも手洗いが上手にできるようになった、という声を聞いている。

《歯磨き・洗面》

昼食後には利用者自らが食堂洗面台で歯磨きを行い、その後当番職員が上手に磨くことが出来ない箇所を磨き直したり、口の周りの清潔を保持している。一日一回の支援ではあるが、家庭でも習慣となるようになっている。また年一回の歯科健診を実施している。今後も継続する事で少しでも虫歯・歯肉炎予防に役立てたいと考えている。

《体力作り》

ルームランナー、ルームマーチ、自転車漕ぎ、イージーウォーク（足首屈伸マシーン）、腹筋マシーン、足湯、肩マッサージ、フットマッサージ、バランスボール、レッグマシーンに加え、エルダックス（上半身運動器具）を使い、利用者それぞれに合った器具で毎日午前中に体力活動を実施している。しかし、使用している器具で耐用年数を超えてきている物も多く、修理が効かないものは新たに購入しながら進めている。

散歩については短距離（1.1ｋｍ）所の周辺コース、中距離（2.1ｋｍ）宇佐野池コース長距離（2,8ｋｍ）橘丘里山緑地公園コースと本人の体力に合わせて 3 コースを設定した。ほぼ一年を通して実施することが出来たが、夏の暑い時期には「出発前に水分補給」「首には保冷剤入りタオル・帽子着用」「途中で塩分チャージ」「帰所後にも水分補給（ポカリ）」で熱中症対策を行った。今年度、御津町体育館へ出向いての散歩は中止とした。

雨天時に行うリズム体操は、密を避けるため２組に分け常時換気をしながら行った。「黄門体操」や「ほほえみ体操」などのストレッチ体操と「東京オリンピック音頭」や「エビカニクス」等のアップテンポな踊りを組み合わせ、楽しみながら身体をうごかした。

平成２３年から減量と体力向上の目的で始め、現在は体重キープ・体力維持にシフトチェンジされつつもあるが、身体を動かす事を楽しんだり気分転換を図ったりする事に大いに役立っているように思える。

今後も安全と安心を最重視し、利用者・保護者のニーズに応えられるような活動をしていきたいと思っている。

（２）健康管理支援

定期健診、年２回実施

身体測定、年３回実施

歯科検診、年１回実施

健康チェック、毎朝の検温実施

給食、健康維持及び生活習慣病防止の献立作成

　　嗜好調査を３月に実施

５．環境整備・余暇活動

（１）環境整備

環境整備活動、毎月実施

清掃奉仕、年２回実施、６月・１２月

衛生対策、玄関、食堂、トイレに消毒液設置

（２）余暇活動

土曜タイム、自治会活動、科別リフレッシュタイムの実施

６．日中一時支援事業(別紙１)

７．苦情解決・虐待防止

（１）苦情解決

苦情としての受付はなかった。

意見要望等が言いやすい環境作りに努め、速やかに対応できるよう職員会議等で職員に周知した。

（２）虐待防止

虐待事案の受付はなかった。

毎月、サービス提供点検を実施し職員会議で検討すると共に、虐待防止の関係する研修に参加し虐待防止に努めた。

８．令和２年度作業実績(別紙２)

９．令和２年度行事実績(別紙３)

（別紙１）

日　中　一　時　支　援　事　業　報　告

１．はじめに

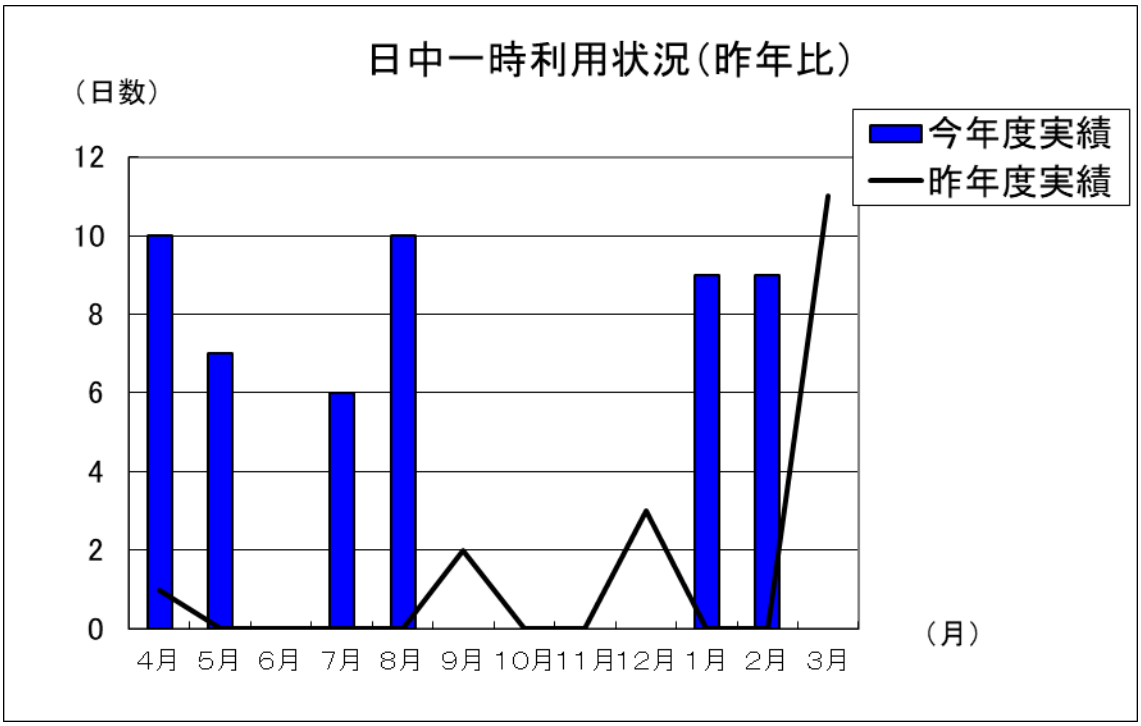
　１８年１０月からスタートした市町村地域生活支援事業の日中一時支援事業〔蒲郡市・豊川市〕は１５年目を迎えた。

２．利用状況

　契約人数：２名

　延べ利用人数：５１名

　今年度の延べ利用人数は５１名。新型コロナウイルス感染症の流行により、入所施設の日中一時支援事業の利用が出来なくなった利用者さんのニーズ答える形で受け入れをしている。今後も様々なニーズに応えるべく、取り組んでいきたい。



３．今後について

　今後も今年度同様、地域にて生活している障がい者の日中活動の場として作業や体力活動等を通した様々な支援を行っていければと考えている

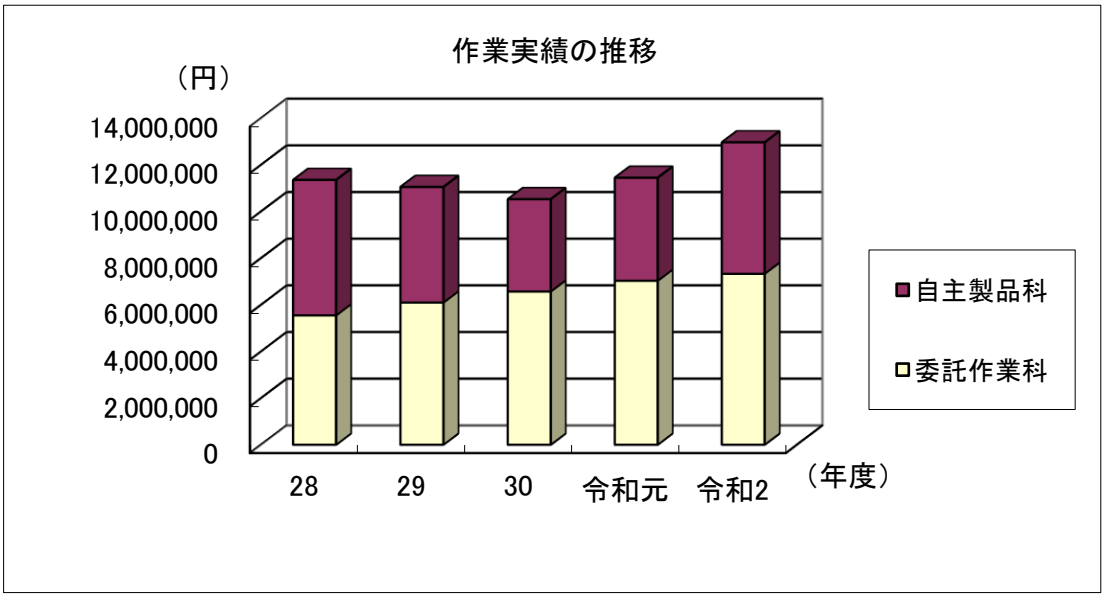
（別紙２）

令和２年度作業実績

１．実　　績　　（単位:円）

	自主製品科	委託作業科	計	経費	工賃
4	257, 005	104, 670	361, 675	230, 326	305, 127
5	106, 221	490, 375	596, 596	336, 024	305, 458
6	151, 340	472, 333	623, 673	1, 505, 908	609, 796
7	192, 060	431, 626	623, 686	300, 083	304, 860
8	145, 772	585, 393	731, 165	626, 255	304, 200
9	89, 370	774, 780	864, 150	251, 199	304, 620
10	185, 340	607, 053	792, 393	369, 433	304, 560
11	1, 000, 692	731, 660	1, 732, 352	256, 187	304, 260
12	1, 307, 405	697, 024	2, 004, 429	336, 172	761, 201
1	593, 334	776, 743	1, 370, 077	647, 175	304, 260
2	598, 723	604, 807	1, 203, 530	213, 802	304, 800
3	585, 209	905, 166	1, 490, 375	474, 079	1, 218, 060
決算見込	421, 320	147, 078	568, 398	723, 904	1, 301, 414
合計	5, 633, 791	7, 328, 708	12, 962, 499	6, 270, 547	6, 632, 616
月平均	469, 483	610, 726	1, 080, 208	522, 546	552, 718

２．作業実績の推移



◎ 年度別実績　　（単位:円）

	28	29	30	令和元	令和2
自主製品科	5, 804, 646	4, 953, 057	3, 958, 067	4, 415, 805	5, 633, 791
委託作業科	5, 546, 338	6, 096, 727	6, 567, 413	7, 030, 454	7, 328, 708
合　　計	11, 350, 984	11, 049, 784	10, 525, 480	11, 446, 259	12, 962, 499

（別紙３）

令和２年度行事実績

６／１６	春の定期健診
３０	利用者賞与支給
８／１３	利用者夏期休暇（～１６）
２５	お楽しみランチ（テイクアウト）
２９	プチ納涼夏祭り大会（所内）
１０／　１	歯科健診
１０	ミニ合同レク（パン食い競走）
１９	秋の定期健診
１２／１４	利用者賞与支給
１８	忘年会（テイクアウト）
２１	蒲郡市（市長、市議会議長、社会福祉協議会長）歳末訪問
２５	クリスマス会
２６	仕事納め
２７	利用者冬期休暇（～１／３）
１／　４	仕事始め
２／　２	節分・豆まき
３／　１	リフレッシュタイム（テイクアウトランチ）
２９	花見（ドライブ）
３１	利用者賞与支給

※　毎月１回・・・・・・・工賃支給、誕生会、環境整備デー
　　高血圧者の血圧測定

※　偶数月・・・・・・・・防災訓練

※　４ヶ月毎・・・・・・・身体測定

令和２年度　社会福祉法人くすの木福祉事業会　共同生活援助事業所
（ひめはる・かるみあ・はちまん）事業報告

1．概要

令和２年度は、グループホームはちまんの利用者１名が介護保険へ移行し、令和２年 12 月に退所、令和３年３月より新たに利用者１名を迎え、利用者定員 49 名で事業展開した。介護保険への移行は、相談支援事業所すてっぷ・わくわくワーク大塚と連携をし、利用者・保護者の思いを汲み取りながら進め、理解を得ることができた。

夜間支援体制の強化としては、夜間における勤務時間を増やすことで、夜間における利用者支援の充実を図ることができた。しかし、ひめはる事業所の職員配置強化については、世話人の確保ができず実施できていない。引き続き、今後の課題として取り組んでいく。

また、新型コロナウイルスの感染予防対策に取り組み、感染予防に努めた。手指消毒、定時検温、消毒清掃、マスク着用を徹底して行った。毎年実施している各ホームの日帰り旅行は、外出の自粛として中止した。

2．入居者の状況(R3.3.31 現在)

事業所名	ホーム名 (住居名)	開設年度	住　　所	定員	男性	女性	備考
ひめはる	ひめはる	H23	大塚町後広畑 25 番地 4	10	10	0	
	あざれあ	H19	大塚町野添 105 番地 1	5	0	5	
	ふれんず	H30	大塚町後広畑 25 番地 10	5	5	0	
かるみあ	さつき荘	H 8	大塚町上中島 32 番地 2	5	5	0	
	かるみあ (2 ユニット)	H25	大塚町後広畑 25 番地 4	5	0	5	かるみあⅠ
				5	5	0	かるみあⅡ
	あいりす	H30	御津町御馬野添 149 番地	4	0	4	
はちまん	はちまん (2 ユニット)	H31	大塚町八幡１番地１	5	5	0	はちまんⅠ
				5	0	5	はちまんⅡ
			総　数	49	30	19	

3．利用者の日中活動状況(R3.3.31 現在)

利用者の日中活動先としては、サポートくすの木へ 25 名、わくわくワーク大塚へ 22 名、一般就労２名(つつじ寮厨房１名、ビル清掃会社１名)となっている。令和２年度は、一般就労者１名が、長年働いていた会社を会社都合により退職し、令和２年４月１日より就労移行支援事業所Ｓを利用しながら再就職を目指した。令和３年２月に再就職し、客室清掃の仕事をしている。

４．職員の会議、研修、訓練

新型コロナウイルスの感染予防対策として、研修参加の人数制限等を行った。パワハラ研修を各ホームで行い、働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。

令和2年度　障害者サポートセンターすてっぷ事業報告

1.　概要

令和2年度は相談に関する件数等は数値的にはほぼ横ばいで推移している。これは現状の体制での支援の限界を迎えていると思われる。本来であれば、訪問が必要な方に電話連絡で対応するなどの支援方法を変えてどうにか支援をしている状況である。

また、令和2年度は通常の相談業務に加えて、蒲郡市と連携をして兼ねてから懸案になっている高齢障害者のサービス利用について考える検討会を実施して介護保険分野と障害福祉分野での現状の把握や今後の連携の在り方について検討する機会を持つことができた。

2.　相談支援の状況

【相談受付数】※(　)内は平成31年（令和元年度）度実績

	実人員	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	その他
人数	**136(132)**	8(4)	114(113)	6(6)	7(7)	1(1)

【支援方法】※(　)内は平成31年（令和元年度）度実績

	訪問	来所	電話等	個別支援会議	その他	**合計**
相談数	471(517)	52(74)	483(460)	49(48)	516(521)	**1571(1688)**

【支援内容】※※(　)内は平成31年（令和元年度）度実績

	福祉サービス利用	障害や病状理解	健康医療	不安解消情緒安定	保育教育	家庭関係人間関係	家計経済
件数	1013	14	753	394	48	410	76

	生活技術	就労	社会参加余暇活動	権利擁護	その他	**合計**
件数	188	85	633	10	96	**3720(3858)**

【サービス等利用計画およびモニタリング報告書作成数】
※(　)内は平成31年度（令和元年度）実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
計画数	4	2	2	2	4	4	6	6	6
モニタリング数	23	15	17	18	30	23	16	10	13

	1月	2月	3月	**合計**
計画数	5	8	4	**41(41)**
モニタリング数	14	25	24	**264(264)**